イトヨ便り

大槌地域 支援員新聞

No.6
2013. 1月号

【発行】大槌町地域支援員配置事業
〒028-1115　岩手県上閉伊郡大槌町上町1-6
TEL：0193-41-2780
E-Mail：otsch.info@gmail.com

あの人にインタビュー

復興と歩むアーティスト さあ一緒に「歩きましょう」

Ａｐｅのカウンターに立つ ノリシゲさん（左） お母さん（中央）お兄さん（右）

吉里吉里に瓦礫や廃材を使って建てられたカフェ＆バーＡｐｅ（アペ）があります。昼間は親子でカウンターに立ち、店には老若男女お客さんが集まります。

今回、Ａｐｅを経営する傍ら、音楽活動を続けているノリシゲさんにお話を聞きました。

Ｑ　Ａｐｅをやろうと思ったきっかけは？

徐々に皆が仮設住宅に入ったと同時に、パラパラになってしまった。最近どうしてんだ？っていう場所って必要だよなって思って。家が残ってる人も、流されちゃった人も、関係なく来れる。ちゃんと金払って、うまいビールを飲んで。そうゆう場所が要るなって。

元々、年をとったらカフェをやりたいと思っていて、ちょっと早すぎるけどやっちゃいますかって！カフェは大好きでよく通っていたから、こんな雰囲気だったよなぁってゆう感覚で（笑）

Ｑ　建物は瓦礫や廃材と聞きましたが？

そうだね。津波受けて解体することになったお家に行ってドアを貰って来たり、材木屋さんに行って使わなそうなものを譲ってもらったり、流木は海行けばいっぱいあるから。

ドアをくれた人が、お店に来てくれたことがあって、「あーこれうちの家のドアだ！懐かしい～、こうやって使ってもらえるとありがたいわぁ」って。思い出がね、ちょこっと残る。

瓦礫の中で見つけたギターから生まれた曲「歩きましょう」

Ｑ　「歩きましょう」は、どのようにして出来た曲なのですか？

電気もきていなかった頃、自分の流された家から使えそうな物をリアカーに積んで何往復もしていた時、たまたまケースに入った濡れていないギターを見つけて。わぁギターだ！って。誰のかわからないけれど、このままにしておくのは可哀そうだから、とりあえず持って行って弾いてあげようって。その日の夜、自分と嫁と自分の兄と3人で、焚火しながら、その日あった事とか、何を見てきたとか報告会みたいな感じで。んじゃそれ歌にしちゃおうって。

Ｑ　チャリティーライブもしていたと聞きましたが？

何箇所くらいでやったかなぁ…東京から鹿児島方面だと各地20箇所くらいじゃないかな。この辺でやったのも含めるとわかんないなぁ。こっちでは、電気がきたら聞いてくださいねって CD は配ったり、お家と仕事がある人には買ってもらってました。

そのお金で、盆踊り大会をしたり、四十九日の合同葬儀のお花を用意したり。当時この辺ではまだ市場がうごいてなかったからね。献花用、祭壇用で４０００本だったかな。あと、放射能測定器を買って大槌で測定しています。機械は特殊だから、嫁が中心になってやってくれている。放射能は目に見えるものじゃないから怖いし。東京の方では子供たちが食べる、一食分の給食の前食検査とかやってるけど、こっちの方はなかなかね。大槌での利用は週に2・3回くらい。発表の仕方には気を使わなければ…安易に言えないし、調べたい人がきて、結果をお伝えするってことをしています。

浪板仮設団地

一坪農園 いよいよ収穫祭

12月11日、午前11時30分から浪板仮設で「一坪農園収穫祭」が行われました。

一坪農園は、公益財団法人いきいき岩手支援財団さんから10月に寄贈され、仮設住宅にお住まいの方に共同で野菜やお花づくりを行える農園をと開園しました。植え付け作業の時に、これがうまくいったら皆で食べようね！という話があがり、収穫の日を楽しみにしていました。

当日は天候にも恵まれ20名の参加があり、賑やかに収穫祭が始まりました。

収穫したのは、キャベツと白菜。2ヶ月前の握りこぶし程の苗を思い返すと、立派に成長してくれました。それでも住民さんは「もう少し大きくしてから、とってあげたいようだなぁ」と言いながら野菜を刈り取りました。

収穫した物は鮭のちゃんちゃん焼きと鮭のあら汁のメニューに使われました。作り方を教えてくれた栄養士の小笠原さんは、「ご家庭で鮭は新巻や塩をしたものが多いと思うんですが、今だとスーパーなどで生の鮭も並んでいますので、塩分を抑えたちゃんちゃん焼きなども召し上がっていただきたい」と言っていました。

時間より早くきた住民さんは、材料を刻んだり、ちゃんちゃん焼きの具材をホイルに包む作業からお手伝いしました。包んだホイルは全部で40個あり、フライパンで回数を分けて蒸し焼きしました。

いよいよ、いただきます！皆さん、ホイルの包みを開けてにっこり。農園のお世話をよくしていた小國さんは「今年、初めてのちゃんちゃん焼きだぁ。最高だ」と召し上がっていました。次はイチゴを植えますかぁ、という案がでており「楽しみがまた増えんね」と住民さん。土いじりは、自然とのふれあいが五感を刺激したり、植物を育てる楽しみや喜びを感じることが健康につながるといわれています。食べて良し、健康に良しの農園の活用に今後も期待です。

（上）ハクサイ、採ったどぉー！！
（下）「どれ食べても美味しい」と住民さん

旬の鮭と育てた野菜で